

まち

No.26 2026年春号

発行日：令和8年3月19日
発行：日本大学理工学部まちづくり工学科教室
☎03-3259-0531(学科事務室)
発行責任者：後藤 浩(教室主任)
編集担当：牟田聡子、栗本賢一
制作：株式会社 ムーンドッグ

contents

巻頭言	1
特集 まちの見方・楽しみ方〈7〉	2
2025(令和7)年度 修了・卒業生の就職状況	8
2025(令和7)年度 まちづくり工学科研究業績	9
2025(令和7)年度後期 “まち” 行事・イベントカレンダー	12
2025(令和7)年度 まちづくり工学科各賞受賞者	14
教職員・学生の活躍	15

巻頭言

まちをつくるのは誰か —行政・専門家と市民のあいだで—

助教 田島洋輔



「まちをつくるのは誰か」。まちづくり工学科で学ぶ皆さんなら、一度はこの問いに向き合ったことがあるのではないのでしょうか。行政、設計者、技術者、あるいは地域の市民。答えはひとつではなく、まちづくりを学ぶほどに、その複雑さに気づかされます。

日本大学理工学部まちづくり工学科で学ぶ意義は、専門知識や実践的技術を身につけることだけではないと考えています。私自身が大切にしてきたのは、教室で学んだ理論(研究)を携えて現場(実践)に出て、市民や行政の声を聞き、自分の言葉で考える姿勢です。実際のまちづくり活動の中では、「技術者」は、単なる「専門家」や「物知りな人」ではなく、異なる立場や考えをもつ市民同士や、市民と行政・専門家を“つなぐ存在”であることが大切です。

私が長年にわたり関わっている利根川流域でのまちづくり活動においても、その姿勢の重要性を強く実感してきました。河川計画・河川整備や水辺空間の賑わい創出には、治水安全性はもちろんのこと、堤防造成や賑わいづくりに向けた

法制度や技術基準など、確実に高度な専門知識や実践技術が求められます。その一方、まちづくり活動において地域の方々から語られるのは、「子どものころはこの川で遊んだ」「増水時の不安はいまも忘れられない」といった、暮らしに根ざした記憶や感覚です。そこには、図面や数値だけでは表せない、まちの“リアル”があります。

完成度の高い計画・設計を示せば、まちが良くなるわけではありませんし、専門家の「正しさ」が、市民の実感や想いとすれ違えば、計画は前に進まないのです。むしろ、住民の何気ない一言が議論の流れを変え、行政計画の方向性を大きく修正する場面を、私は何度も見てきました。

だからこそ、私は「技術者=翻訳者・つなぎ手」だと考えています。市民の言葉を専門的な視点で整理し、行政や計画・設計者の言葉へと翻訳する。反対に、関連する法制度や専門技術の背景を、市民に伝わる言葉に置き換え、実空間へ落とし込む手助けをする。その人たちの「あいだ」に立ち、対話を成立させることが、「まちづくり技術者」である皆さんの役割であると認識しています。つまり、まちづくりの専門性とは、“地域の想いをつなぐための道具”なのだと思います。

日本大学は、多様な背景をもつ学生が集う大学です。その多様さは、まちづくりにおいて大きな強みになります。利根川の流れが一本ではなく、無数の支流が集まって形づくられているように、“まち”もまた、多様な関わりの積み重ねによって成り立っています。

まちをつくるのは、専門家か、市民か。その答えは、人びとの「あいだ」に立ち、現場で悩み、考え続ける技術者一人ひとりの中にあります。本学科での学びを通して、皆さんが「まちづくり技術者」として社会に羽ばたいていくことを、心から期待しています。



人と人とのあいだに、流れが生まれる
(2025年9月、筆者らが取り組む利根川水遊びフェス会場にて撮影)

まちの見方・楽しみ方⁷

「まち」は、見る人の眼によってその姿を変えます。

本特集「まちの見方・楽しみ方」も第7弾を迎えました。12号から偶数号で続けてきた本シリーズでは、学科教員それぞれの専門的な眼差しを通じて、日本各地の「まち」の多彩な魅力をお届けしてまいりました。本号では、教員に加え、

本学科の大学院生が執筆に加わっています。研究の最前線で「まち」と向き合う大学院生の視点には、教員とはまた異なる瑞々しい感性と探究心が息づいています。経験を重ねた専門家の眼と、新たな問いを携えた若き研究者の眼——その重なりから浮かび上がる「まち」の表情をお楽しみください。



歩いて健康になるまち

日本大学名誉教授 青木 和夫

担当科目：地域健康づくり論／統計学／健康・医療とまちづくり特論／など

日本人は平均寿命が世界でトップクラスにあるが、生活に不便のない時期である健康寿命は平均寿命より10年以上短い。その原因として、生活習慣病や体力の低下（フレイル）による要介護状態になることが挙げられている。高齢になると体力が低下してくるが、生活習慣病やフレイルの予防をするためには家に閉じこもらないで外に出て歩くことが薦められている。そのためにはまず歩ける場所を確保しなければならない。そこで、「歩きたい」「歩いてしまう」まちをめざして、さまざまな特徴をもったまちづくりが行われてきている。

そのようなまちのひとつとして、富山市を例に挙げてみたい。富山市では2007年に中心市街地活性化基本計画を策定した。これは市街地が拡散して

人口密度が減少してごみ収集などの行政コストが増加するとともに、住民の高齢化のために自動車を運転できない市民が増加し、都市全体の活力が低下したことに対する対策であった。そこで、富山市では中心市街地の活性化をめざして、公共交通の利便性の向上、賑わい拠点の創出、まちなか居住の推進を政策として押し進めてきた。

公共交通の利便性に関しては、従来存在していた路面電車（写真1）の路線の一部に路線を新設して環状化し、その新駅周囲に屋根付きの公共広場「グランドプラザ」や地産地消をうたった産地直売店「地場もん屋総本店」を設置し（写真2）、イベントへの参加や買い物が便利にできるようにした。また「富山市ガラス美術館」（写真3）などの施設を新設した。この計画の優れた点は、中心市街地の活性化によって住民の利便性を増すとも

に、路面電車という公共交通を軸に住民が歩いて生活できるようにしたことが健康につながるというメリットも生んだということである。ある研究によれば、一歩歩くことで医療費が0.072円減少するという一方で、住民が健康になると市の財政も改善するというメリットも考えられるということである。

そこで富山市では、さらに「とほ活」という名称で歩くことを誘導する政策を新たに取り始めている。この「とほ活」では、歩いた歩数や路面電車の利用、イベントへの参加などでポイントがたまるようなスマートホンのアプリを配布し、獲得したポイント数に応じて抽選で商品を得ることができる。この抽選には市民しか応募できないが、観光や仕事で富山市を訪れるときには歩数計をつけて路面電車を利用して、いろいろな賑わい拠点をさがしてはいかがでしょうか。



写真1 富山市の路面電車



写真2 「グランドプラザ」広場

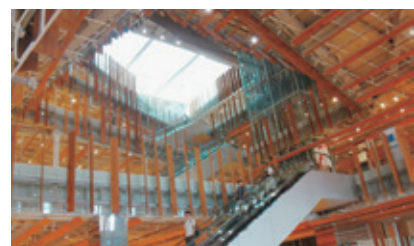


写真3 富山市ガラス美術館

小樽市

北海道小樽市は、一言で表すと「日本で最も歩いて楽しい、飽きない」ようなまちだと思う。小樽と聞くと、あの倉庫群と小樽運河を思い浮かべる方も多く、観光地としてはメジャーな場所である。実際に私は、当学科/専攻入学以前と以後で数回訪れたことがある。入学以前はただ、上記2点が織りなす言葉にはできないノスタルジックな空間が好きという抽象的な理由だった。しかし、入学後は「なぜ小樽市がこのような空間を創出できているのか?」という問いに対して、土地柄や歴史、社会情勢等のまちづくり工学の視点で説明できるようになり、本市以外でまち歩きをしても非常に楽しい。このように、当学科/専攻では、物事に対して多角的視点で思考する力を養えると実感した。実際に皆さんも、当学科での学びを通じて、おのおの好きなまちを「なぜ好きなのか」説明できるようになると、これまで見ていた景色/空間がまた違って見えると思う。



小樽運河と倉庫群が織りなす景観美



後藤 佑綺 (岡田・栗本研究室)
研究テーマ | 「みなとオアシス制度」の事後評価に関する研究

金沢市「ひがし茶屋街」

私のまちの楽しみ方は、観光地という舞台の裏側をのぞくことです。美観地区のひとつである金沢の「ひがし茶屋街」。美しい出格子が連なる表通りから、ふと迷路のような路地裏へ入ると、表通りの喧騒とは異なる静けさと、住民の暮らしの息遣いが色濃く残っています。保存された歴史的景観の中で、現代の暮らしがどう適応し、共存しているか。その「隙間」にこそ、生きた街の魅力が隠れています。皆さんもぜひ、奥の路地に一歩足を踏み入れて、肌で感じてみてください。



田口 奈緒子 (山崎研究室)
研究テーマ | 「東京のしゃれた街並みづくり推進条例」登録団体における公開空地の整備特性と活用手法に関する研究—公開空地と周辺空間との連続性に着目して—



江戸時代的情緒あふれる美しい街並みが残る「ひがし茶屋街」

鞆の浦

鞆の浦は瀬戸内海の中央に位置し、東西からの潮流が交錯することから、古代より交通の要衝として発展してきました。江戸期からの建物が数多く残り、風光明媚な景観を形づくっていますが、その基盤には中世以来の地割や街路網があります。街並みを眺めるだけでなく、街路の構成や土木構造物の役割に目を向けて歩くことで、先人の工夫や歴史の積み重ねをより深く感じ取ることができます。こうした見方は、鞆の浦に限らず、さまざまな「まち」を読み解く手がかりとなるでしょう。



會田 龍一郎 (阿部研究室)
研究テーマ | 齋藤月岑日記に見る江戸町人の生活圏に関する研究



歴史的な建物と構造物により構成される鞆の浦の景観



いい“まち”をつくるには

日本大学名誉教授 横内 憲久

元まちづくり工学科教室主任(初代)
専門:ウオーターフロント計画 など

「まちづくり」とは、まちの“器と中身”の相乗効果をいかに高められるかの有形無形のデザインだといえます。ここでいう“器”とは、まちを構成する地形や建物・道路など物理的事物で、“中身”とは、その“器”での人々の生活・暮らし方を指します。この“器と中身”の状態によって、活気のあるまち、落ち着いたまち、風情があるまちなど個性が出てきます。抽象的なことでは分かりにくいので、私の身近な事例を引いて“器と中身”を説明してみましょう。

私はいま東京都中野区に住んで70年超になります。中野には、サブカルの聖地といわれる中野ブロードウェイがあります。今回の事例はそこから東へ数分歩いた「薬師あいロード商店街」です。図のように、幅員約6m、長さ350m程度で、約120店舗がゆるくS字状にうねっている道路沿いに

建っています。間口1、2間(180~360cm)の店ばかりです。

さて、ここの“器”ですが、通りに面する建物のほとんどは2階、3階建てで、歩いていると左右が壁(D/H≒1)のようで、視線も見通しが利きません。いわゆるアイストップで、ある程度進むと次の風景が見え始めますが、①②では出口までは見えません。左右の建物で囲まれ感が高まります。③まで進むとあとは、南口ゲートまで行き先を明確にする④のような直線の通りになります。楽しい曲線です。

そして、“中身”です。この商店街はもともと新井薬師梅照院というお寺の門前町として発展してきました。大正時代からの店もあり、門前町のせいで多くのお客さんを対象とするため、多種の小さな店が軒を連ねているの

でしょう。私の幼少期(1950年頃)の思い出は、祭りや縁日など、とにかく賑わいと活気に満ちていました。この“器”でこれまで培われた活気は、建物や看板や人情(コミュニティー)などに表れているのです。もちろん、シャッターが閉まっている店もあります。昔はどんな店だったか、どうすればまた開くのか夢想しながら歩くのも楽しいのです。“中身”は、時間の積み重ねで、暮らしの歴史なのです。

「あいロード」の囲まれ感、見通しが利かないから個々の建物に意識が向く、随所に点在する歴史の付いた店舗のファサードや看板、今も続いている八の付く日の縁日(月3回)。これらの“器と中身”は簡単につくれないから、簡単に壊さないことが重要です。こんなまちの見方や楽しみ方を、今もしています。



見通しが利かず、どんな風景が次に来るか期待感がある



建物と道路幅のバランスが囲われ感を出している



ここから大きく曲がって楽しい景観になる



ここからは南口ゲートまで一直線に見える

「あいロード」(黄色)の形状と視線の方向(矢印)



商店街の出入り口の南口ゲートのモニュメント

成田山の参道



当時の鉄道用に使われていた構造物が現存する「第一トンネル」

成田駅から成田山新勝寺へ向かう場合、表参道を歩いていくのが一般的ですが、実はその東側に「電車道」と呼ばれる道路があります。

この名称は、戦前に「成宗電気軌道」という路面電車が走っていたことになみえます。戦争の激化により不要不急線として廃止されましたが、その線形や遺構は残っており、当時使われていたトンネルは今でも道路用として現役で使われています。

今度、成田山へ訪れた際には、かつての軌跡を今に伝える“もうひとつの参道”からまちの歴史をのぞいてみませんか？



嘉沼 匠洋（阿部研究室）

研究テーマ | 地域鉄道の多面的機能に関する研究

辻堂

都心から、わずか1時間の距離にある神奈川県藤沢市、辻堂。砂浜を転がる、ビーチクルーザーの太いタイヤの音。サンダルがアスファルトを叩く、軽やかなリズム。ここには、この街ならではの程よい“ゆるさ”が息づいています。

駅からの一本道に軒を連ねる小さな商店を、横目に歩みを進めていくと……。不意に視界が開け、押し寄せる波の音が、耳を包み込みます。

せわしない日々疲れを感じたときは、都会の喧騒を忘れ、海辺のそよ風に身を委ねてみてはいかがでしょうか。



大淵 裕太（岡田・栗本研究室）

研究テーマ | 工業景観の魅力向上に関する研究



辻堂海浜公園



蔵をリノベーションした「くしだ蔵」

下田市

下田エリアは、リノベーションにより生まれ変わりが進むまちです。特に幕末の面影を残すなまこ壁の蔵が、エリアのあちこちでカフェや観光交流施設へと姿を変えています。

黒船により来航したペリー一行が行進したとされるペリーロードの石畳を歩き、リノベーション空間で一息つく時間は、過去と現代が交差するこのまちならではの醍醐味です。

古い建物を大切に使いつなぐ人々の営みに触れ、変わりゆくまちの景色を五感で味わうことができます。



青野 かれん（落合研究室）

研究テーマ | 地域交流促進に寄与する集合住宅の活用方策に関する研究



100年の記憶をつなぐ駅前広場 —市民と育てる“くにたち”の風景

助教 植田 瑞昌

私はまちづくりや建築計画の分野において、バリアフリー・ユニバーサルデザインを専門とし、さまざまな自治体と関わってきました。なかでも、自治体が特に長い時間をかけて丁寧に取り組んでいる事例が東京都国立市における国立駅前広場の再開発です。

国立駅は、今からちょうど100年前の1926年に、赤い三角屋根と白い壁が特徴的な駅舎として開業しました。駅前には、計画都市として築かれてきた独自の歴史と、現在まで受け継がれてきた落ち着いた街並みがあります。人々が集う場として機能してきた駅前の円形公園も、池とともに当時の姿を今に伝えています。さらに国立駅周辺は、1950年代に掲げられた「文教都市くにたち」を原点として形成されてきました。駅を中心に放射状に伸びる道路網の中でも、南北に伸びる大学通り（写真1）は、美しい桜並木を有し、都市景観の骨格として高く評価されています。洗練された住宅地と学術・文化の気配が共存する街並みは、歴史の積み重ねによって育まれてきました。赤い三角屋根が印象的な旧国立駅舎

は、2006年のJR中央線高架化に伴い一度解体されましたが、2020年に再築され、現在は「まちの魅力発信の拠点」として活用されています。

国立市では、より魅力的なまちづくりを進めるため、2009年に「国立駅周辺まちづくり基本計画」を策定しました。さらに、まちづくりの理念と歴史を継承し、市民や駅利用者が親しめる広場空間の創出やバリアフリー整備を進めるため、「旧国立駅舎東西広場・円形公園整備基本方針」に基づき、市民との対話を重ねながら計画が進められています。南口駅前広場空間の整備にあたっては、「くにたち」らしい広場のあり方を探るため、2022年に「国立駅南口駅前デザインアイデアコンペ」^{注1)}を実施し、地域のための場所として望まれる姿を広く募集しました。加えて、さまざまな社会実験を行うとともに、2024年には駅前広場について考えるワークショップ「くにたちえきひろ大学」^{注2)}が開催され、未来の「くにたち」について活発な意見交換が行われるなど、住民参加型のまちづくりが繰り広げられています。

四季を感じられる並木道、文化活動が息づく大学通り——国立駅前は、歴史と現在が調和した清々しい魅力を今も放ち続けています。また、大学や教育機関に近い立地から、書店やカフェ、個性ある飲食店が点在し、知的で落ち着いた雰囲気醸し出しています。大型商業施設に偏らない、程よい賑わいも大きな魅力のひとつです。

これらの魅力を残しながら現在、駅前広場および円形公園整備の実施設計に向けた計画が進められています。この計画では、さまざまな人がさまざまな形でゆっくりと過ごせる広場空間と障害のある方も高齢者も、子どもも大人も、だれもが安全で安心して利用できる空間をめざしています。また、ユニバーサルデザインは多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方であり、解はひとつではありません。完成してからも当事者とともにチェックし、スパイラルアップ^{注3)}をしながら時代とともに変化し続ける広場の姿を見ることができましょう。ぜひ足を運び、その変化を体感していただければと思います。



写真1



写真2

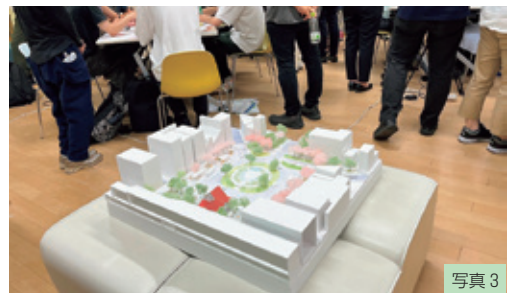


写真3

写真1 国立駅から見た旧駅舎と大学通り並木道
写真2 ワークショップにおけるまち歩きの様子（円形公園から旧駅舎を望む）
写真3 模型を前に市民参加型ワークショップ

注1) 国立駅南口駅前デザインアイデアコンペ <https://www.city.kunitachi.tokyo.jp/soshiki/Dept06/Div05/Sec01/gyomu/0004/hiroba/konpe/10448.html>
注2) 国立駅南口駅前広場基本設計ワークショップ・社会実験「くにたちえきひろ大学」開催報告 <https://www.city.kunitachi.tokyo.jp/soshiki/Dept06/Div05/Sec01/gyomu/0004/hiroba/kihon/11358.html>
注3) スパイラルアップとは継続的なスキルアップに向けたプロセス。

両国

私が選ぶまちは、墨田区の両国です。このまちは、ひとつの風景だけでは語れない奥行きがあります。

歴史的な駅舎を抜けて国技館を見上げると、奥には東京スカイツリーが見えます。路地でお相撲さんとすれ違う体験も、外国人観光客の多さも、この地域の機能や文化が多様に広がっていることの表れだと思います。

そんなさまざまな要素が生活圏に溶け込んでいるところがこのまちの魅力であり、私のお気に入りである理由です。日大理工の駿河台校舎からも近いので、ぜひ歩いてみてください！



国技館通りには歴代横綱の銅像と実寸台の手形が設置されています



河西 咲季 (牟田研究室)

研究テーマ | 地域特性が通学路選定と交通事故リスクに与える影響に関する研究



動線が立体的に交差した空間

渋谷

渋谷駅周辺は、大規模再開発が進行する現在も、完成形をもたない都市として更新され続けているエリアです。

複数の鉄道路線が集中する渋谷では、都市機能を維持しながら工事を重ねるといって、極めて高度な更新が行われ続けてきました。「渋谷ヒカリエ」や「渋谷ストリーム」などは、その過程で生まれた都市の断片に過ぎませんが、広場・店舗・オフィス・水辺空間などへの動線が立体的に交差され、その時代ならではの都市体験を生み出しています。

変化の途中に身を委ね、都市が生成されるプロセスを体験してみてください。



杉本 知優 (落合研究室)

研究テーマ | わが国の「生活観光」の事業要件に関する研究

豊島園

豊島園駅周辺の魅力は、駅から徒歩圏に映画『ハリー・ポッター』シリーズの世界を体験できる施設「ワーナー ブラザース スタジオツアー東京」があることです。

館内では撮影で使われたセットや衣装・小道具を間近で見られ、解説展示で制作の工夫も知ることができます。行き帰りの人で駅前が賑わい、待ち合わせや写真撮影をする姿も見かけます。朝夕にはローブ姿の来訪者もいて、駅前の雰囲気は普段と少し変わります。

駅を出てから施設までの道でも同じ方向へ歩く人が続き、観光地らしさが出るのも特徴です。



高尾 晴輝 (仲村研究室)

研究テーマ | 杭基礎の損傷モニタリングに関する研究



夕方の豊島園駅前広場

今年度の進路決定状況（2026年3月3日現在）は表1の通りです。就職活動スケジュールの早期化に対応して、今年度は学生が進路を決断する時期も早くなった傾向が伺えました。この傾向は、進路を決断してからじっくりと修士論文や卒業論文に取り組めるという利点がある反面、業界・職種研究や自己分析などに割く時間が十分に取れないまま、学生が進路を決断してしまうという懸念も拭えません。しかしながら、学生たちと話していると、不安に駆られながらも自分の将来を真剣に考えて決断した結果であることに気づかされます。理系学生は「売り手市場」が続いていますが、まちづくりの学生はその状況に安易に流されることなく、地に足をつけた就職活動を展開してくれたように思えます。そういった状況下において、まちづくり工学専攻・学科の学生の進路決定率は今年度も概ね堅調に推移してきました。

図1に就職先の業種別割合（進学含む）、表2に就職・進学先

表1 就職・進学状況（2026年3月3日現在）

	学部			大学院			合計
	男子	女子	計	男子	女子	計	
在籍者数	87人	33人	120人	2人	7人	9人	129人
就職・進学希望者数	75人	25人	100人	2人	6人	8人	108人
就職者数	60人	19人	79人	2人	6人	8人	87人
進学者数	13人	5人	18人	0人	0人	0人	18人
決定率*	97.3%	96.0%	97.0%	100%	100%	100%	97.2%

*決定率=(就職者数+進学者数)/就職・進学希望者数

一覧、図2にこれまでの修了・卒業生の就職先業種別割合（進学含む）を示します。今年度の主な特徴としては、大学院への進学者数が大幅に増加したこと、国家公務員総合職での就職者を3年連続で輩出できたこと、職種がさらに広がったことが挙げられま

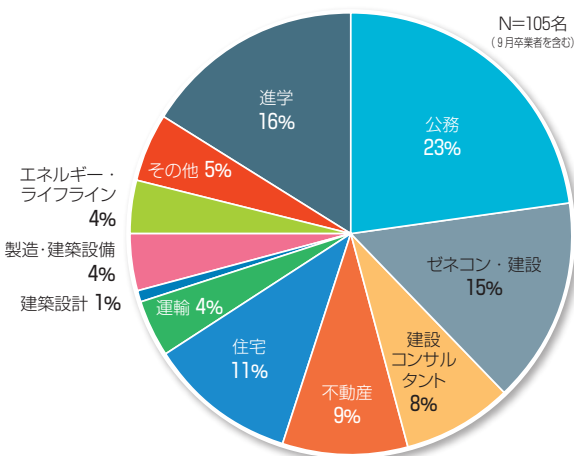


図1 業種別割合

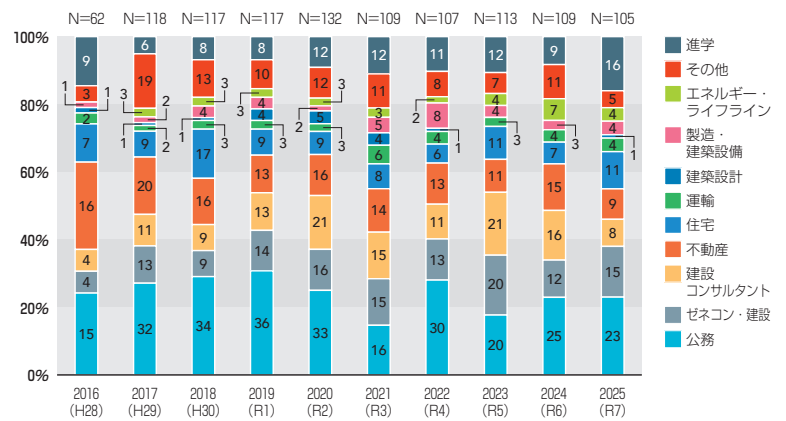


図2 まちづくり工学専攻修了生・まちづくり工学科卒業生の就職先業種別割合（進路未決定者を除く。2025(令和7)年度は2026年3月3日現在）

表2 就職・進学先一覧

業種	企業・団体名（[]内は職種と人数）	人数
公務	国土交通省[総合職(建築)1], 国土交通省中部地方整備局[土木1], 千葉県庁[土木2], 東京都庁[土木11], 長野県庁[土木1], 福島県庁[建築1], 川崎市役所[土木2], 千葉市役所[建築1], 横浜市役所[土木1], 藤沢市役所[土木1], 太田区役所[建築1], 新宿区役所[土木1]	24人
ゼネコン・建設	大林組[土木施工1, 建築施工1], 竹中工務店[建築施工1], 鴻池組[意匠設計1], 五洋建設[建築施工1], JFE シビル[建築設計1], 大成ユーレック[建築施工2], 戸田建設[土木施工1, 建築施工1, 設備設計1, 建築機材1], フジタ[土木施工1, 事務1], 不動テトラ[土木施工1], 村本建設[建築施工1]	16人
建設コンサルタント・調査	日本工営[1], 大日本ダイヤコンサルタント[1], 千代田コンサルタント[1], 中央コンサルタンツ[1], 日本都市技術[1], UR リンケージ[1], 三井共同建設コンサルタント[1], ランドブレイン[1], リテックエンジニアリング[1]	9人
不動産	野村不動産[総合職(建築系)1], 大林新星と不動産[1], 大成有楽不動産[1], 東神開発[1], 東電不動産[2], 日建設計コンストラクション・マネジメント[1] 他	9人
住宅	オープンハウス[建築設計1], 住友林業[建築設計1, 建築施工1], 住友林業アーキテクノ[建築設計1], 積水ハウス[建築設計2, 建築施工1], 大和ハウス工業[建築施工1], タクトホーム[建築施工1], トヨタホーム東京[建築設計1], ミサワホーム建設[建築施工1] 他	12人
運輸	東日本旅客鉄道[建築1], 東京地下鉄[土木1], 小田急電鉄[1], 中日本高速道路[土木1]	4人
建築設計	梓設計[都市開発1]	1人
製造・建築設備	朝日工業社[設備施工1], 三協フロンテア[1], フジヤ[設計1], ヒロセホールディングス[1]	4人
エネルギー・ライフライン	東京電力ホールディングス[土木1], 東電タウンプランニング[2], 東京水道[土木1]	4人
その他	ベターリビング[1], 東京都立大学法人[1] 他	5人
進学	日本大学大学院理工学研究科博士前期課程まちづくり工学専攻[15], 東京科学大学大学院建築学系[1], 明治大学大学院理工学研究科建築・都市工学専攻[1]	17人

す。本学大学院まちづくり工学専攻へは、これまでで最多の15名（一般第3期入試を除く）が進学予定です。国家公務員総合職では、国土交通省での採用が決定しました。ゼネコンの意匠設計部門と大手不動産企業の総合職への就職は、本専攻・学科から初めてとなりました。

これまでのまちづくり工学専攻修士・まちづくり工学科卒業生の進路を振り返りますと、公務員・運輸・エネルギーといった発注者側の業界へ3割前後、ゼネコン・住宅業界へ2割前後、建設コンサルタント・建築設計へ2割前後、不動産へ1割5分前後で推移しています。

2025(令和7)年度 まちづくり工学科研究業績

審査付き論文

桑波田謙・八藤後猛：平滑な床環境下における視覚障害者誘導システム構築：白杖による床材の識別要因，日本建築学会計画系論文集，90巻，830号，pp.650-669，2025.4.1.

勇崎大翔・岡田智秀：伊豆半島「津波対策地区協議会」を通じてみた津波防災まちづくりに関する研究—各地区の地域特性と協議方針の関係に着目して—，土木学会論文集，81巻，4号，2025.4.20.

阿部貴弘：土木遺産ツーリズムの萌芽，コンクリート工学，Vol.63，No.5，pp.337-343，2025.5.1.

中根進・石川眞・後藤浩：污水管きょにおけるスパン単位の異状程度表現と修繕効果，下水道協会誌，62巻，752号（号通算），pp.97-105，2025.6.1.

後藤浩・石野和男：河川氾濫時に形成される波状水面を伴う流況を考慮した水工構造物設計上の留意点，河川技術論文集，31巻，pp.121-126，2025.6.19.

香取潤・山崎晋：東京都における都市再生特別地区の環境貢献に関する研究—環境貢献の全体傾向と緑化貢献に着目して—，第43回日本建築学会地域施設計画研究シンポジウム発表論文集，pp.1-8，2025.7.17.

青野かれん・落合正行：地域活性化に寄与する集合住宅の活用方策に関する研究—全国事例にみる集合住宅のストック活用の現状と特徴—，第43回日本建築学会地域施設計画研究シンポジウム発表論文集，pp.109-116，2025.7.17.

落合はる菜・落合正行：まちなか観光地における観光施設計画に関する研究—歴史的資源を活用した観光まちづくり事例を対象として—，第43回日本建築学会地域施設計画研究シンポジウム発表論文集，pp.415-422，2025.7.17.

杉本知優・落合正行：わが国の「生活観光」の取組実態に関する研究—取組主体ごとにみる「生活観光」を構成する施設と運営の特徴把握—，第43回日本建築学会地域施設計画研究シンポジウム発表論文集，pp.423-430，2025.7.17.

落合正行・雨宮知彦・関根千紗乃・土橋悟・照内創：まちづくりボードゲーム『まちビルド』の開発と実践—空間更新手法「トレード」を通じた都市への主体的関わり—，住総研研究論文集・実践研究報告集，No.51，pp.313-322，2025.7.

後藤浩・戸塚夏萌：海浜における飛砂制御のための堆砂垣配置形状：簡易文献調査，砂防学会誌，78巻，3号，pp.13-21，2025.9.15.

三浦靖貴・岡田智秀・田島洋輔・栗本賢一：景観評価を通じてみた千葉県沿岸の自動車車窓から見た「海景」の景観的特徴に関する研究，土木学会論文集，81巻，18号，2025.10.30.

大淵裕太・岡田智秀・田島洋輔：京浜臨海地域における水上交通からみた工場景観特性と視覚構造に関する研究，土木学会論文集，81巻，18号，2025.10.30.

常松美咲・岡田智秀・田島洋輔：青森県青森市「浅虫海づり公園」を通じてみた海釣り施設の事業継続要件に関する研究，土木学会論文集，81巻，18号，2025.10.30.

松岡七海・岡田智秀・落合正行：東京湾沿岸の全9海浜における背後の土地利用からみた都市型人工海浜の整備特性に関する研究，土木学会論文集，81巻，18号，2025.10.30.

戸塚夏萌・後藤浩・清水利浩：海浜における飛砂制御工としてのトレンチの適用性：現地実験に基づく検証，土木学会論文集，81巻，17号，2025.11.4.

後藤浩・戸塚夏萌・堀田新太郎：現地データに基づく飛砂量推算式の実験係数の評価と推算法に関する考察，土木学会論文集，81巻，17号，2025.11.4.

小野寺亮太・田島洋輔・岡田智秀：わが国の中山間地域における脱炭素循環型地域づくりに関する研究—単独製材所を対象としたエネルギー地産地消モデルの実現可能性の検討—，土木学会論文集，81巻，26号，2026.1.16.

植田瑞昌・小野栄一・東祐二：誰もが学び楽しめる「動物を介した社会教育施設」に関する研究—障害児とその家族に配慮した動物園に向けて—，リハビリテーション・エンジニアリング，

41巻，1号，pp.48-56，2026.2.1.

秋元美咲・依田光正：車いす使用者の眼高による公園内の池に対する主観評価の基礎的検討，福祉文化研究，Vol.30，2026.3.31.（2026.1.5受理）

招待論文（査読なし）

阿部貴弘：近世城下町における水系施設の設計論理に関する研究—水系施設に着目した類型学的アプローチ—，考古学ジャーナル，Vol.812，pp.37-41，2025.6.30.

栗本賢一：産業テリトリーオの空間構造に関する定量的研究—都市と産業の生態系的理解に向けた新たな分析枠組み—，産業と空間の関係を再考する—産業テリトリーオの概念から—，2025年度日本建築学会大会（九州）研究集会資料，2025.9.10.

落合正行：自治体が誘導するまちなかの地域の居場所づくりと地域の担い手育成—空き家等を活用した居場所事例を通して—，2025年度日本建築学会大会（九州）建築計画部門研究協議会，2025.9.11.

口頭発表（審査なし）

阿部貴弘・青木健：太陽光発電設備に関する景観マネジメント手法—静岡県内市町の取組み事例—，土地総合研究，Vol.33，No.1，pp.18-25，2025.3.4.

藤澤綾香・阿部貴弘：伝統芸能の維持継承が地域コミュニティに及ぼす効果に関する基礎的研究—長野県長野市の獅子舞を対象として—，土木計画学研究発表会講演集，Vol.71，2025.6.8.

西山孝樹・藤田龍之・天野光一：『会津家世実紀』にみる社会基盤整備に関する一考察—初代藩主保科正之を対象として—，土木学会第45回土木史研究発表会，2025.6.21-22.

會田龍一郎・阿部貴弘：城下町米沢における水路網の設計論理に関する研究，土木史研究講演集，Vol.45，pp.93-102，2025.6.22.

田中滋夫・長嶋秀和・阿部貴弘・松野祐太・中川恵・伊藤毅・篠原修：地籍図を活用した

江戸期城下町絵図の復元 大和郡山を例として, 土木史研究講演集, Vol.45, pp.75-80, 2025.6.22.

長嶋秀和・田中滋夫・阿部貴弘・松野祐太・中川恵・伊藤毅・篠原修: 近世城下町大和郡山の都市設計論理, 土木史研究講演集, Vol.45, pp.81-86, 2025.6.22.

松野祐太・中尾俊介・伊藤毅・田中滋夫・阿部貴弘・長嶋秀和・篠原修: 長浜城下町の街区設計論理に関する考察, 土木史研究講演集, Vol.45, pp.87-92, 2025.6.22.

植田瑞昌・菅原麻衣子・是枝喜代治・稲垣諭・沖原花音: エド・ロバーツ・キャンパスにみるユニバーサルデザインーインクルーシブ教育環境に向けてー, 日本リハビリテーション工学協会第39回リハ工学カンファレンス in 東京, 2025.8.8.

植田瑞昌: 障害児にも配慮した誰もが学び楽しめる「動物を介した社会教育施設」の研究 第4報～動物園における取組事例～, 日本リハビリテーション工学協会第39回リハ工学カンファレンス in 東京, 2025.8.10.

後藤浩・清水利浩・戸塚夏萌: 飛砂対策構造物としての逆台形状トレンチの現地への適用に関する考察 (11PM2-Ke-08), 令和7年度土木学会全国大会第80回年次学術講演会, 2025.9.11.

大塚晴希・田中賢: 動物園・水族館のバリアフリーと鑑賞の多様性に関する研究, 2025年度日本建築学会大会(九州)学術講演会, 2025.9.11.

河西咲季・牟田聡子・八藤後猛: ペット飼育者と非飼育者が共存する住宅地に関する研究: 住宅地におけるペット飼育の現状と課題, 2025年度日本建築学会大会(九州)学術講演梗概集, 都市計画, pp.187-188, 2025.9.11.

西村莉南・牟田聡子・八藤後猛: フリースクールの地域特性と地域交流活動の実態: 関東圏のフリースクールを対象として, 2025年度日本建築学会大会(九州)学術講演梗概集, 都市計画, pp.195-196, 2025.9.11.

柳原純夫・仲村成貴・後藤洋三・山本一敏: 令和6年能登半島地震時の災害応急対策における地元建設業者の広域支援活動, 令和7年度土木学会全国大会第80回年次学術講演会, 2025.9.12.

香取潤・山崎晋: 市街地再開発事業の環境配慮・面的エネルギーネットワークに関する研究ー東京都の都市再生特別地区を対象にしてー, 2025年度日本建築学会大会(九州), 2025.9.12.

田中賢・大塚晴希: EUの博物館における展示

物のアクセシブルについて, 第28回日本福祉のまちづくり学会全国大会(小松), 2025.9.27.

糟谷佐紀・野口祐子・植田瑞昌: 障害者のための住宅政策に及ぼす影響に関する考察, 第28回日本福祉のまちづくり学会全国大会(小松), 2025.9.27.

植田瑞昌・菅原麻衣子: アメリカにおけるADA以降のアクセシビリティ整備の変遷ーカリフォルニア州パークレー・サンフランシスコを事例としてー, 第28回日本福祉のまちづくり学会全国大会(小松), 2025.9.27.

菅原麻衣子・植田瑞昌: アメリカにおける障害のある生徒・学生のインクルーシブ教育事情と社会動向ーカリフォルニア州パークレーを事例としてー, 第28回日本福祉のまちづくり学会全国大会(小松), 2025.9.27.

西村莉南・牟田聡子: 入居者と家族の交流に着目した高齢者施設の面会空間に関する基礎的研究, 第28回日本福祉のまちづくり学会全国大会(小松), 2025.9.27.

大塚晴希・田中賢: 博物館・美術館のバリアフリーと芸術鑑賞の多様性に関する研究, 第28回日本福祉のまちづくり学会全国大会(小松), 2025.9.28.

桑波田謙・八藤後猛・田中賢: 平滑な床環境下における視覚障害者誘導システム構築1: 白杖による床材の識別要因, 第28回日本福祉のまちづくり学会全国大会(小松), 2025.9.28.

西村莉南・牟田聡子・田中賢: 入居者と家族の交流に着目した高齢者施設の面会空間に関する基礎的研究, 第28回日本福祉のまちづくり学会全国大会(小松), 2025.9.28.

植田瑞昌・生越雅志・中山恵: 多胎児等連れ公共交通機関利用に関する実態調査ー多胎児等を育てる子育て当事者の意見 その1ー, 第28回日本福祉のまちづくり学会全国大会(小松), 2025.9.28.

藤原毬花・牟田聡子: 聴覚に困りごとのある中高生における日常生活の困りごとと支援ツールの使用実態, 第28回日本福祉のまちづくり学会全国大会(小松), 2025.9.28.

常松美咲・岡田智秀・田島洋輔: 地方小都市における海釣り施設を活用したみなとまちづくりに関する研究, 第72回土木学会計画学研究発表会・秋大会(企画提案型), 2025.11.22-24.

後藤佑綺・岡田智秀・栗本賢一: 全国の「みなとオアシス」における機能構成と立地特性に関する研究ー運営要綱の機能分類に基づく類型化ー, 第72回土木学会学研究発表会・秋大会(企画提案型), 2025.11.23.

濱松里紗・山崎晋: 首都圏の駅型保育園における園外保育の移動経路に関する研究ー歩道空間と防護柵に着目してー, 2025年度日本福祉のまちづくり学会関東甲信越支部合同研究発表会, 2025.11.29.

栗田実咲・山崎晋: 東京都における都市再生特別地区のバリアフリー貢献に関する研究ー竣工前後のバリアフリールートの差異に着目してー, 2025年度日本福祉のまちづくり学会関東甲信越支部合同研究発表会, 2025.11.29.

清水石翼・阿部貴弘: 千葉県富里市における太陽光発電設備の設置実態, 令和7年度(第69回)日本大学理工学部学術講演会予稿集, pp.251-252, 2025.12.4.

石上秀眞・阿部貴弘: 米国カリフォルニア州における日系人に関わる歴史的環境保全に関する研究ー価値評価の観点および評価軸に着目してー, 令和7年度(第69回)日本大学理工学部学術講演会予稿集, pp.253-254, 2025.12.4.

石塚菜々子・小木曾裕・阿部貴弘: 鎌倉市まちづくり条例に基づく自主まちづくり計画の運営実態に関する研究, 令和7年度(第69回)日本大学理工学部学術講演会予稿集, pp.257-258, 2025.12.4.

中山美卯・岡田智秀・田島洋輔・中村緋里: 大都市圏におけるウォーターフロント開発を中心としたみなとまちづくりに関する研究ー大阪府大阪市における天保山ハーバービレッジの事業経緯に着目してー, 令和7年度(第69回)日本大学理工学部学術講演会, 2025.12.4.

河村岳輝・岡田智秀・田島洋輔・村井優晃: 中山間地域における脱炭素循環型地域づくりに関する研究ー(その3)群馬県上野村“上野村きこのセンター”の事業経緯に着目してー, 令和7年度(第69回)日本大学理工学部学術講演会, 2025.12.4.

石井大河・岡田智秀・栗本賢一: 夕陽景観が成立する名所の地理的特性に関する研究ー『日本の夕陽百選』に着目してー, 令和7年度(第69回)日本大学理工学部学術講演会, 2025.12.4.

藤原義斗・大塚晴希・植田瑞昌・田中賢: スペイン・マドリッド美術館通りの博物館のバリアフリーに関する研究, 令和7年度(第69回)日本大学理工学部学術講演会, 2025.12.4.

小森祐基・植田瑞昌・田中賢: 小規模店舗での高齢者の買物行動に関する研究, 令和7年度(第69回)日本大学理工学部学術講演会, 2025.12.4.

大石愛斗・植田瑞昌・田中賢: プレーパークにおける友人の形成と地域社会との連携に関する研究, 令和7年度(第69回)日本大学理工学部学

術講演会, 2025.12.4.

仲村成貴: [特別セッション 日本大学特別研究
余災害研究ソサイエティ (NUDS) の活動] 老
朽化と災害に備える社会インフラの再確認, 令
和7年度(第69回)日本大学理工学部学術講演
会, 2025.12.4.

石原和馬・小倉悠平・仲村成貴・新井寿昭・高
橋孝二: 地盤一杭基礎系模型の振動台実験時
における自由地盤の震動特性, 令和7年度(第69
回)日本大学理工学部学術講演会, 2025.12.4.

荻野凌・小倉悠平・仲村成貴・新井寿昭・高橋
孝二: モーションキャプチャを用いた剛体の微
小振幅計測, 令和7年度(第69回)日本大学理
工学部学術講演会, 2025.12.4.

町田拓海・仲村成貴: 点検区分ⅢおよびⅣと判
定された道路橋の特徴に関する基礎的調査—全
国道路施設点検データベースを活用して—, 令
和7年度(第69回)日本大学理工学部学術講演
会, 2025.12.4.

野沢蓮・仲村成貴: 長野県北部地震直後にお
ける栄村での応急復旧対応に関する文献調査, 令
和7年度(第69回)日本大学理工学部学術講演
会, 2025.12.4.

荻野凌・小倉悠平・仲村成貴・新井寿昭・高橋
孝二: モーションキャプチャを用いた剛体の微
小振幅計測, 令和7年度(第69回)日本大学理
工学部学術講演会, 2025.12.4.

松本奈々・押田佳子: 杏雲堂平塚病院にみる
平塚市浜岳地区の変遷に関する研究, 令和7
年度(第69回)日本大学理工学部学術講演会,
2025.12.4.

白田直樹・押田佳子: 近世紀行文にみる大和
国の観光景観の変遷に関する研究, 令和7年
度(第69回)日本大学理工学部学術講演会,
2025.12.4.

森川陽翔・押田佳子: 神奈川県鎌倉市にお
ける観光客の一時避難場所としての寺社の可能性
に関する研究—オーバーツーリズム都市にお
ける観光危機管理について—, 令和7年度(第69回)
日本大学理工学部学術講演会, 2025.12.4.

須藤太陽・落合正行: 都市部における水辺の魅
力を活かした高架下空間の活用特性に関する研
究—高架下空間活用8事例の建物用途と水辺の
関係に着目して—, 令和7年度(第69回)日本大
学理工学部学術講演会, 2025.12.4.

小泉温人・落合正行: 空き家活用促進に向けた
担い手のあり方に関する研究—全国のDIY等
支援サービスを対象として—, 令和7年度(第
69回)日本大学理工学部学術講演会, 2025.12.4.

岡俊輔・落合正行: わが国における「空き家サ
ブスク」の滞在施設立地の特徴に関する研究,
令和7年度(第69回)日本大学理工学部学術講演
会, 2025.12.4.

白石将也・落合正行・落合はる菜: 千葉県香取
市佐原における「まちなか観光地」の観光行動に
関する研究—アクセス方法と滞在形態の差異に
着目して—, 令和7年度(第69回)日本大学理
工学部学術講演会, 2025.12.4.

萩原拓輝・山崎晋: 地方都市の市街地再開発事
業における容積率充足率に関する研究—公共
施設の導入に着目して—, 令和7年度(第69
回)日本大学理工学部学術講演会, 2025.12.4.

青柳愛佳・押田佳子: 六義園のガイドボラン
ティア活動にみる文化財庭園の保護と活用の意識
に関する研究, 2025年度日本造園学会100周年
記念関東支部大会, 2025.12.6.

松田佑士・森川陽翔・押田佳子: 千葉県船橋市
の住区基幹公園の看板にみる利用者ルールの実
態に関する基礎的研究, 2025年度日本造園学
会100周年記念関東支部大会, 2025.12.6.

梶田美希・押田佳子: 千葉市における小規模公
園の分布実態に関する研究, 2025年度日本造園
学会100周年記念関東支部大会, 2025.12.6.

大山祥矢・白田直輝・押田佳子: 八潮市にお
ける水路網の親水度に関する基礎的研究, 2025
年度日本造園学会100周年記念関東支部大会,
2025.12.6.

松本心・押田佳子: 関東地方の観光地商店街に
おける店舗構成に関する研究, 2025年度日本造
園学会100周年記念関東支部大会, 2025.12.6.

小島颯太・押田佳子: 関東圏のサービスエリ
ア・パーキングエリア, 道の駅におけるドッグ
ラン運用実態に関する研究, 2025年度日本造園
学会100周年記念関東支部大会, 2025.12.6.

酒井理帆・山崎晋: 都市再生特別地区にお
ける環境取り組みに関するソフト分野の公共貢献
の研究—竣工後の空間整備実態に着目して—,
2025年度日本造園学会100周年記念関東支部大
会, 2025.12.6.

松本奈々・山崎晋: 都市再生特別地区にお
ける帰宅困難者空間の整備実態と防災計画に
関する研究—虎ノ門エリアを参考に—, 2025
年度日本造園学会100周年記念関東支部大会,
2025.12.6.

池田晃基・山崎晋: 公開空地における活用空間
の整備動向に関する研究—公開空地のコンセ
プトと設置階に着目して—, 2025年度日本造園学
会100周年記念関東支部大会, 2025.12.6.

萩原拓輝・山崎晋: 地方都市の市街地再開発事
業における駅前広場に関する研究—空間構成と
周辺施設との接続に着目して—, 2025年度日本
造園学会100周年記念関東支部大会, 2025.12.6.

開智也・山崎晋: 「東京のしゃれた街並みづく
り推進条例」における公開空地の活用特性に
関する研究—同一プロジェクト内の公開空地の活
用傾向に着目して—, 2025年度日本造園学会
100周年記念関東支部大会, 2025.12.6.

栗田実咲・山崎晋: 東京都における都市再生特
別地区のバリアフリー貢献に関する研究—周辺
施設までのバリアフリー接続に着目して—,
2025年度日本造園学会100周年記念関東支部大
会, 2025.12.6.

濱松里紗・山崎晋: 駅型保育園における園外保
育の移動経路と歩道環境の整備に関する研究—
首都圏の駅型保育園における園外保育の移動環
境に関する研究 その3—, 2025年度日本造園
学会100周年記念関東支部大会, 2025.12.6.

室谷拓実・山崎晋: プロ野球球場の広場空間に
おける空間特性とイベント活用に関する研究—
まちなか球場に着目して—, 2025年度日本造園
学会100周年記念関東支部大会, 2025.12.6.

大久保知哉・山崎晋: アウトレットモールで
開催されるイベントにおける地域連携・イベ
ントスペースの空間特性に関する研究, 2025
年度日本造園学会100周年記念関東支部大会,
2025.12.6.

志村陽・川井優弥・鈴木憲伸・鳥山菜・山崎
晋: 大学キャンパスにおける公開空地と開放性
に関する研究—総合設計制度を活用した事例に
着目して—, 2025年度日本造園学会100周年記
念関東支部大会, 2025.12.6.

小林睦月・樺島ひかり・木村結・鈴木健大・竹
村美咲・山崎晋: 公開空地における設置物とイ
ベント開催数の関係性に関する研究—東京のし
ゃれた街並みづくり推進条例まちづくり登録団
体17プロジェクトに着目して—, 2025年度日本
造園学会100周年記念関東支部大会, 2025.12.6.

三浦靖貴・岡田智秀・田島洋輔・栗本賢一: 自
動車の車窓からみた千葉県房総半島の動的な
「海景」の景観評価と空間的特徴に関する研究,
第21回土木学会景観・デザイン研究発表会,
2025.12.12-14.

秋元美咲・依田光正: 平坦, 段差昇りおよび降
り場面でのT字型つえ歩行におけるつえ接地角
度の検討, 日本人間工学会第55回関東支部大会
講演論文集, C2-2, 2025.12.14.

長谷川大輔・田島洋輔: 農業地域における食品
廃棄物系バイオガスプラントを活用した循環型
地域づくりに関する研究—埼玉県小川町の取り

組みに着目して一、自然環境復元学会第26回全国大会、2026.2.20.

町田拓海・仲村成貴：3D都市モデルを用いた道路橋の日射量推定と点検結果に関する試行的な検討、第53回土木学会関東支部技術研究発表会、2026.3.3.

野沢蓮・仲村成貴：オープンデータと報告書から推測される特別豪雪地帯における震災応急対応の概況―長野県栄村を対象として一、第53回土木学会関東支部技術研究発表会、2026.3.3.

小倉悠平・仲村成貴・新井寿昭：杭頭の剛性低下に伴う上部構造・杭基礎・地盤系の振動特性に関する解析的検討―杭頭の剛性低下が固有振動数に及ぼす影響一、第53回土木学会関東支部技術研究発表会、2026.3.4.

荻野凌・仲村成貴・新井寿昭：ジャイロセンサを活用した上部構造・杭基礎模型における簡易な動的回転挙動計測の試み、第53回土木学会関東支部技術研究発表会、2026.3.4.

石原和馬・仲村成貴・新井寿昭：振動台実験に基づく杭頭の剛性低下と上部構造・杭基礎・地盤系の固有振動数変化の検討、第53回土木学会関東支部技術研究発表会、2026.3.4.

ポスター発表

鈴木真悠・仲村成貴：令和6年能登半島地震の応急復旧作業に関連する地域建設業者とその関連業者の被災調査、令和7年度土木学会全国大会第80回年次学術講演会、2025.9.11.

内山柚生・岡田智秀・栗本賢一・松岡七海：都市型人工海浜の官民連携による事業手法に関する研究―千葉県千葉市「稲毛海浜公園」を対象として一、令和7年度(第69回)日本大学理工学部学術講演会、2025.12.4.

山本拓叶・岡田智秀・栗本賢一・常松美咲・高木孝太郎・若菜新世：「八千代台フォトコンテスト」からみる近郊都市の地域景観資源に関する研究―応募写真分析を通じて一、令和7年度(第69回)日本大学理工学部学術講演会、2025.12.4.

町田拓海・仲村成貴：[特別セッション 日本大学特別研究余災害研究ソサイエティ (NUDS) の活動] 点検区分ⅢおよびⅣと判定された道路橋の特徴に関する基礎的調査―全国道路施設点検データベースを活用して一、令和7年度(第69回)日本大学理工学部学術講演会、2025.12.4.

野沢蓮・仲村成貴：[特別セッション 日本大学特別研究余災害研究ソサイエティ (NUDS) の活動] 長野県北部地震直後における栄村での応急復旧対応に関する文献調査、令和7年度(第69回)日本大学理工学部学術講演会、2025.12.4.

学会誌報告(査読なし)

田中賢・大塚晴希：博物館・美術館・動物園のアクセシブル対応(イタリア・スペイン・フランス・日本)、福祉のまちづくり研究、Vol.27, No.1, 2025.6.15.

植田瑞昌・糟谷佐紀・野口祐子：福祉のまちづくり×レジェンド②小川信子氏 吉田紗栄子氏、福祉のまちづくり研究、Vol.27, No.1, 2025.6.15.

石井大輔・植田瑞昌：支部報告 関東甲信越支部 東京都・中野区役所新庁舎見学会、福祉のまちづくり研究、Vol.27, No.1, 2025.6.15.

柏瀬光寿・植田瑞昌：支部報告 関東甲信越支部 ころみ学園・ココファームワイナリー見学会、福祉のまちづくり研究、Vol.27, No.1, 2025.6.15.

糟谷佐紀・野口祐子・植田瑞昌：福祉のまちづくり×レジェンド③八藤後猛氏 相良二郎氏、福祉のまちづくり研究、Vol.27, No.2, 2025.12.15.

研究業績につきましては日本学術会議協力学術研究団体の所属機関における論文および発表、理工学部及び工学部学術講演会での発表を掲載しております。ご了承ください。

2025(令和7)年度後期 “まち” 行事・イベントカレンダー

10/2(木) 特別レクチャー 「英国から見た日本の都市計画の特質―英日の計画制度の架け橋をめざして―」

場所：タワー・スコラ S1218 (ゼミ室1)

日本大学理工学部まちづくり工学科・特別レクチャー「英国から見た日本の都市計画の特質―英日の計画制度の架け橋をめざして―」が開催されました。このレクチャーは、まちづくり工学科3期生の菊原綾乃さん(阿部研究室)が所属する英国のArrow Planning LimitedのMark Schullさんを講師に迎え、英国の都市計画の現状や日本との比較を通して、両国のまちづくりの発展につなげようと企画されたものです。当日は、36名の学生・教員が参加しました。

はじめに「Planning without Borders: Comparing UK and Japanese Approaches」と題して、Schullさんから英国の都市計画の系譜や現在直面する諸課題等について解説がありました。さらに菊原さんから、水辺の賑わい施設(Trafalgar TavernとCANAL CADE)の比較を通して、英日の都市計画の相違点や類似点について解説がありました。その後の質疑応答では、参加した学生・教員を交えて、大変活発な意見交換が行われました。最後に、英国と日本では都市計画やまちづくりに関わる制度は異なるものの、直面する問題点や課題には類似点も多いこ



とから、継続的に意見交換を行うことが、双方のまちづくりの発展に寄与することを確認して閉会しました。

今回のレクチャーは、都市計画を学ぶ学生にとって、自国の制度を海外と比較することで相対的に理解する絶好の機会となりました。今後も、国際的な視点を取り入れた企画を通じて、学生の学びを深めてまいります。今回の特別レクチャーはまちづくり工学科初の試みでしたが、今後につながる盛り多き取り組みとなりました。

10/11(土) 12(土) お茶の水 アートピクニック

場所：お茶の水茗溪通り、お茶の水仲通り、新お茶の水ビルディング、瀬川ビル周辺のビル公開空地



10/12(日) 第3回駿河台桜理祭、ホームカミングデー

場所：駿河台キャンパス



11/1(土) 2(日) 第11回桜理祭

場所：船橋キャンパス

11/2(日) 船橋キャンパスウォッチング

場所：船橋キャンパス

入試を控えた高校3年生だけでなく、高校1・2年生の生徒さんからも、本学科の学びや入試に関する質問や相談をたくさんいただきました。

11/4(火) 2年生オリエンテーション (まちづくり現地見学会)

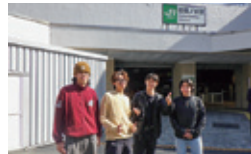
午前中は教員とともにまち歩きを、お昼はタワー・スコラにて2年生と教員の懇親会を実施しました。



阿部貴弘 ● 五感で楽しむ秋の神楽坂&飯田橋周辺まち歩き～徹底解説！新旧まちづくりプロジェクト～



岡田智秀 ● 東京ウォーターフロントの歩き方・楽しみ方



後藤 浩 ● 「あって当たり前」のインフラ」をしみじみ知ろう！



田中 賢 ● 「UR まちとくらしのミュージアム」を巡り、今までとこれからのまちづくりを考える



仲村成貴 ● 災害を疑似体験して、まちを考える



依田光正 ● 東京駅内外の多様な歩行空間を歩いてみよう



押田佳子 ● 近代の庭園まちづくりの痕跡を辿る一駒込・六義園一



落合正行 ● まちを巻き込む“高架下リノベーション”の魅力



山崎 晋 ● 丸の内・有楽町エリア散策～三菱ヶ原から国際ビジネス拠点になるまでのまちの変遷と都市計画手法を学ぶ～



西山孝樹 ● 下町の情緒を残しつつ、新しい文化も融合する浅草から蔵前を歩く



栗本賢一 ● 「原宿・表参道」都市デザインの100年を体感する！～伝統×最先端が交差する、東京最強のまちづくり現場を歩く～



田島洋輔 ● 隅田川とともに発展したまちの魅力を探る～台東区・墨田区の防災・環境・歴史の視点で一



牟田聡子 ● 社と歴史を感じるインクルーシブ探検



植田瑞昌・八藤後 猛 ● 建築とまちづくりの未来を探る：信濃町・明治神宮外苑アバンツアー

12/3 令和7年度(第69回) 理工学部学術講演会

今年も恒例の学術講演会が開催されました。まちづくり工学科からは、以下の学生が優秀発表賞を受賞しました。

氏名	発表題目
須藤 太陽 (4年/落合研究室)	都市部における水辺の魅力を活かした高架下空間の活用特性に関する研究—高架下空間活用8事例の建物用途と水辺の関係に着目して—
石塚 菜々子 (修士2年/阿部研究室)	鎌倉市まちづくり条例に基づく自主まちづくり計画の運営実態に関する研究
内山 柚生 (岡田・栗本研究室)	都市型人工海浜の官民連携による事業手法に関する研究—千葉県千葉市「稲毛海浜公園」を対象として—

12/6 まちづくり工学専攻博士前期課程 第2回修士論文中間審査会

場所：タワー・スコラ S204教室
博士前期課程2年生8人が発表しました。



12/13 日本大学習志野高等学校 CST コース研究成果発表会

場所：日本大学習志野高等学校 (1階視聴覚教室)

10/14 - 12/23 令和7年度 企業セミナー

学部3年生、修士1年生を主とした全学年を対象として、全面対面式で今年も下記企業に参加いただきました。

2025年10月14日(火)

国際航業株式会社/三協フロンティア株式会社/株式会社オオバ/清水建設株式会社

2025年10月21日(火)

株式会社大林組/アビリティーズ・ケアネット株式会社/佐藤工業株式会社/株式会社オリエンタルコンサルタンツ/戸田建設株式会社

2025年10月28日(火)

株式会社大京/株式会社熊谷組/横浜市住宅供給公社/株式会社フジタ/中央コンサルタンツ株式会社

2025年11月11日(火)

西松建設株式会社/鹿島建設株式会社/株式会社日建設/成田国際空港株式会社(NAA)/東日本旅客鉄道株式会社(JR東日本)/リテックエンジニアリング株式会社

2025年11月18日(火)

株式会社ジェイアール東日本建築設計/ヨシモトポール株式会社/株式会社URリンケージ/日本振興株式会社/パシフィックコンサルタンツ株式会社

2025年11月25日(火)

日軽エンジニアリング株式会社/大和リース株式会社/株式会社建設技術研究所/日本工営株式会社/パナソニックホームズ株式会社/東電不動産株式会社

2025年12月2日(火)

ホクト・エンジニアリング株式会社/東電タウンプランニング株式会社/株式会社竹中工務店/株式会社テイクコ/大成有楽不動産株式会社/株式会社パスコ

2025年12月9日(火)

オリジナル設計株式会社/中日本高速道路株式会社(NEXCO中日本)/鹿島建物総合管理株式会社/八千代エンジニアリン

2025(令和7)年度 まちづくり工学科各賞受賞者

学長賞(学業部門)

- 齋藤 百華(阿部研究室)

優等賞

- 齋藤 百華(阿部研究室)
- 中山 大輔(阿部研究室)
- 荻野 凌(仲村研究室)

桜工賞

- 常松 美咲(岡田・田島・栗本研究室)
- 須藤 太陽(落合研究室)

理工学部校友会まちづくり部会特別賞

- 青柳 愛佳(押田研究室)
- 酒井 理帆(山崎研究室)
- 松本 心(押田研究室)
- 山本 璃美(阿部研究室)

最優秀賞修士論文発表賞

- 常松 美咲(岡田・田島・栗本研究室) わが国における「海釣り施設」を活用したみなとまちづくりに関する研究—「海釣り施設」の継続運営に資する留意点の導出—

最優秀卒業論文発表賞

- 須藤 太陽(落合研究室)：都市部における水辺の魅力を活かした高架下空間の活用に関する研究—建物用途と水辺の関係に着目して—
- 町田 拓海(仲村研究室)：3D都市モデルを用いた道路橋の日射量推定と点検結果に関する試行的な検討

優秀卒業論文発表賞

- 青柳 愛佳(押田研究室)：六義園のガイドボランティア活動にみる文化財庭園の保護と活用の意識に関する研究
- 石井 大河(岡田・田島・栗本研究室)：わが国における夕陽景観の名所の立地特性と景観構成に関する研究—「日本の夕陽百選」全182箇所の空間分析および画像解析を通して—
- 齋藤 百華(阿部研究室)：複合書店におけるフリースペースの活用に関する研究—東京都23区における複合書店を事例として—
- 高木 孝太郎・山本 拓叶(岡田・田島・栗本研究室)：わが国の近郊都市におけ

る地域景観資源に関する研究—「八千代台フォトコンテスト」応募写真の空間分析および画像解析を通して—

- 野沢 蓮(仲村研究室)：オープンデータと報告書から推測される特別豪雪地帯における震災応急対応の概況—長野県栄村を対象として—
- 巻木 舞月(仲村研究室)：船橋キャンパス整備に伴う土地改変箇所における表層の土質推定
- 山中 詩温(牟田研究室)：民間賃貸住宅における同性カップルの入居障壁に関する研究

桜まち卒業論文発表賞

- 青木 颯汰(阿部研究室)：地域鉄道の車内イベントに関する基礎的研究
- 岡 俊輔(落合研究室)：わが国における「空き家サブスク」のまちづくりへの展開可能性に関する研究—全国に展開するADDRESSの滞在施設立地に着目して—
- 栗田 実咲(山崎研究室)：東京都における都市再生特別地区のバリアフリー貢獻の研究—周辺施設までのバリアフリー

接続に着目して—

- 酒井 理帆(山崎研究室)：都市再生特別地区におけるソフト分野の環境公共貢献に関する研究—空間整備を伴う取り組みに着目して—
- 中山 大輔(阿部研究室)：離島における文化財住宅の維持継承に関する基礎的研究—維持継承の体制と取り組みに着目して—
- 萩原 拓輝(山崎研究室)：地方都市の市街地再開発事業における容積率充足率に関する実態分析—公共公益施設の導入および人口規模との関係性に着目して—
- 松田 大輝(落合研究室)：わが国の外装建材の市場動向からみた街並みデザインに関する一考察
- 山田 満生(落合研究室)：地域との関係からみた公民館の事業展開に関する研究—長期存続する公民館42館の「公民館だより」を通して—
- 山本 璃美(阿部研究室)：新聞記事にみる城郭景観の認識の変遷に関する研究(その1)—明治期からバブル経済崩壊後まで—

グ株式会社／独立行政法人都市再生機構（UR 都市機構）

2025年12月16日（火）

東海旅客鉄道株式会社（JR 東海）／株式会社朝日工業社／京成電鉄株式会社／日本工営都市空間株式会社／株式会社千代田コンサルタント／株式会社浅沼組

2025年12月23日（火）


清水総合開発株式会社／首都高速道路株式会社／東京地下鉄株式会社（東京メトロ）／西武造園株式会社／地方共同法人日本下水道事業団（JS）／一般財団法人公共用地補償機構

2/9 月 卒業研究発表会審査会

4つのユニットごとに卒業研究審査会が実施されました。学生は1年間の探究で得た知見を踏まえ、先生方からの問いに真摯に向き合う様子が印象的でした。



2/19 水 修士論文最終審査会

氏名	発表題目
 石塚 菜々子 (阿部研究室)	鎌倉市まちづくり条例に基づく自主まちづくり計画の運営に関する研究

氏名	発表題目
 大塚 晴希 (田中・植田研究室)	ダイバーシティを考慮した観光施設の在り方に関する研究
 落合 はる菜 (落合研究室)	まちなか観光地の空間構造の類型からみた面的整備に関する研究—歴史的資源を活用した観光まちづくり事例10地域を対象として—
 香取 潤 (山崎研究室)	都市開発事業における環境配慮の実態と意思決定構造に関する研究—東京都の事例を対象にして—
 鈴木 真悠 (仲村研究室)	地震発生後の地域建設業者による応急復旧対応の状況推定—地域特性と被災状況に基づく分析の試み—
 常松 美咲 (岡田・田島・栗本研究室)	わが国における「海釣り施設」を活用したみなとまちづくりに関する研究—「海釣り施設」の継続運営に資する留意点の導出—
 藤澤 綾香 (阿部研究室)	伝統芸能の維持継承がコミュニティに及ぼす効果に関する研究—長野県長野市の獅子舞を対象として—
 松島 萌華 (落合研究室)	コミュニティ施設における持続的活動を支える施設空間に関する研究—長期存続する優良公民館16館を通して—

3/4 水 卒業発表・修了発表

学部卒業生：103名（2025年9月卒業1名含む）

大学院博士前期課程修了者：8名

なお学位伝達式（卒業式）は、3/25（水）に日本武道館（卒業式）、ならびに駿河台キャンパス（学位記伝達式）で行われます。

教職員・学生の活躍

2025(令和7)年10月1日～2026(令和8)年3月31日

学会・協会等の受賞、テレビ放映や新聞・雑誌に掲載された記事、書籍の出版など、本学科の教職員・学生の活躍を紹介します。

[受賞]

■ 准教授 西山孝樹

日本大学理工学部教育貢献賞～Teaching Awards～（令和7年度前学期における教育の貢献）

受賞科目：コンピュータ演習

受賞年月日：2025年12月11日

■ 4年 青柳愛佳・准教授 押田佳子

2025年度日本造園学会関東支部大会口頭発表部門優秀発表賞



対象：六義園のガイドボランティア活動にみる文化財庭園の保護と活用の意識に関する研究
受賞年月日：2025年12月6日

■ 特任教授 八藤後 猛

足立区功労者表彰

表彰区分：自治功労

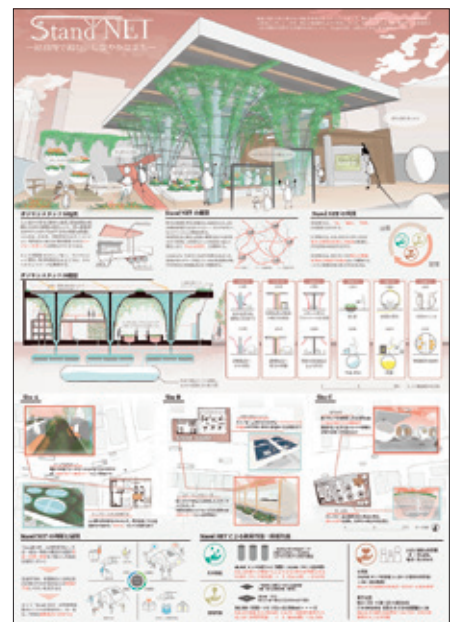
受賞年月日：2025年10月1日

■ 博士前期課程1年 杉本知優・4年 須藤大陽・岡 俊輔・小泉温人(指導教員 落合正行)

環境・設備デザイン賞「第3回学生のための環境デザイン設計競技」2025入賞／BE賞

対象：Stand NET 給油所で編む、しなやかなまち

受賞年月日：2025年9月27日



[学会誌掲載]

■ 教授 阿部貴弘

記事名：鼎談「インフラを資産に一まちの個性を育み、質を高める」(足立泰美氏、村山顕人氏との鼎談)

掲載誌：『土木学会誌』Vol.110, No.12, pp.12-17

発行年月日：2025年12月15日

■ 准教授 山崎 晋

記事名：支部報告 関東甲信越支部 高齢者総合福祉施設「アザレアンさなだ」+福祉用具デザイン展「やさしさのかたち」現地見学会

掲載誌：『福祉のまちづくり研究』27巻1号

発行年月日：2025年6月15日

■ 助教 植田瑞昌

記事名：支部報告 関東甲信越支部 東京都・中野区役所新庁舎見学会(石井大輔氏との共著)

掲載誌：『福祉のまちづくり研究』27巻1号

発行年月日：2025年6月15日

記事名：支部報告 関東甲信越支部 ころみ学園・ココファームワイナリー見学会(柏瀬光寿氏との共著)

掲載誌：『福祉のまちづくり研究』27巻1号

発行年月日：2025年6月15日

記事名：すべての子どもに遊びの場をーPlay for ALLの実現へー

掲載誌：『新宿UDまちづくりニューズレター』Vol.19(新宿区都市計画部 景観・まちづくり課)

発行年月日：2025年12月

■ 教授 阿部貴弘

土木遺産さんぽ

主催：一般社団法人土木技術者女性の会

開催年月日：2025年11月8日

■ 教授 岡田智秀

荒川らしい景観「水と景観」

主催：荒川区

開催年月日：2026年1月31日

ウォークブル社会実験「五井のまち文化祭」の講評と展望

主催：市原市

開催年月日：2026年2月21日

■ 教授 仲村成貴

能登半島地震復興支援セミナー「平常時と災害時の生活環境と社会インフラ施設」

主催：公益財団法人大学コンソーシアム石川

開催年月日：2025年11月14日

編集後記

今号では、長年学科を支えてくださった先生、そして今年度着任いただいた先生から、その豊かな経験に基づくまち歩きの記事をいただきました。あわせて、大学院生による、学びを深めた視点からのまちの捉え方も紹介しています。世代を超えて「まち」を読み解く姿に触れると、学科が育んできた学びの広がりをあらためて実感します。

学科が創設され13年が経ちました。2026年3月22日には、少し遅くなりましたが、学科10周年記念パーティーが開催されます。まだ若い学科ではありますが、これまで学生が集い、学び、巣立ち、そして後輩を支える循環が確かな形を帯びてきました。こうした積み重ねが、次の10年、20年、その先へと向けて、どのような新しい景色を見せてくれるのか、期待がふくらみます。

(牟田)

■ 助教 植田瑞昌

板橋グリーンカレッジ・教養課程「あなたのまち「いたばし」をだれもが住みやすいまちにするために」

主催：板橋区教育委員会事務局生涯学習課

開催年月日：2025年10月20日、10月27日

練馬区事業者ユニバーサルデザイン研修「店舗の実例から学ぶバリアフリー改修の工夫とポイント」

主催：練馬区建築課福祉のまちづくり係

開催年月日：2025年11月18日

■ 助教 栗本賢一

三鷹の森学園三鷹市立第五小学校「まなびの会」

主催：三鷹の森学園三鷹市立第五小学校

開催年月日：2025年11月29日

三鷹の森学園三鷹市立高山小学校「MKP(三鷹開発プロジェクト)発表会」

主催：三鷹の森学園三鷹市立高山小学校

開催年月日：2026年2月26日

■ 助教 田島洋輔

再生可能エネルギーを中心とした循環型地域づくりーまちに眠る“負の資源”を逆手に取った地域再生ー

主催：土浦日本大学高等学校、土浦日本大学中等教育学校

開催年月日：2025年11月19日

[講演等]

■ 教授 阿部貴弘

石巻市「田代島」における文化的建造物群の継承計画の策定についてー文化庁による全国初のモデル地区の取組みー

主催：全国離島振興協議会令和7年度第3回理事会

開催年月日：2025年10月15日

インフラツーリズムの現状及び課題

主催：日本学術振興会産学協力研究委員会「持続可能なインフラのための次世代建設材料の創成」R072委員会

開催年月日：2025年10月21日

■ 教授 岡田智秀

地方都市における「みなとオアシス」を活用した地域活性化

主催：国交省四国地方整備局

開催年月日：2026年1月15日

身近な暮らしの景観、それをいかした景観まちづくり

主催：佐野市

開催年月日：2026年1月30日

越谷らしい公共空間のデザインとは

主催：越谷市

開催年月日：2026年2月4日

■ 助教 植田瑞昌

進化するトイレ『快適トイレ編』連続講座「快適さと多様な人々との共生」

主催：一般社団法人日本トイレ協会

開催年月日：2025年10月28日

みんなで手をつなごう 未来の福祉フェスタ「障がいのあるお子さんのこころと体に合った排泄スタイル~住まいのくふう~」

主催：「UniWave 2025 埼玉・宮代」UniWave 実行委員会

開催年月日：2025年11月9日

■ 助教 田島洋輔

大学生と考える高校生環境ワークショップ(コーディネーター)

主催：埼玉県気候変動適応センター、埼玉県環境科学国際センター

協力：埼玉県久喜市

開催年月日：2025年9月21日、10月19日、11月14日

ネイチャーポジティブな都市へー暮らしの中で育む自然との共生ー(ファシリテーター)

主催：自然環境復元学会

共催：日本ビオトープ協会

開催年月日：2026年2月20日

■ 助教 牟田聡子

命を繋ぐ「預かり合い」のために

共催：社会福祉法人那覇市社会福祉協議会、沖縄県ファミリー・サポート・センター連絡協議会

開催年月日：2026年1月31日

[監修]

■ 助教 植田瑞昌

記事名：ずっとみんなが通いたくなる小さな店舗のつくりかた【通路編】(バリアフリー整備・設計のヒント集)

掲載誌：『練馬区都市整備部建築課福祉のまちづくり係発行冊子』

発行年月日：2026年3月

[テレビ番組協力]

■ 准教授 山崎 晋

テレビ東京「[木ドラ24] できても、できなくても」(模型協力)

放映日：2025年10月23日

「教職員・学生の活躍」の情報は、随時編集までお寄せください。なお、本年度の学会等での発表は、次号(10月発行予定)にまとめて掲載します。